

高齢者・介護保険事業計画(進行管理対象事業)の進捗状況について

1 地域でともに支え合うしくみの充実

○ 高齢者等による支え合いのしくみの充実

(1) ハートフルネットワーク事業の充実

協力機関数は、687 団体（令和 6 年度末時点）で、新規登録は 7 件ありました。事業の成果としては、民間協力機関からの通報事例が 15 件にのぼり、安否確認等の速やかな対応につながっています。

引き続き、事業の周知を図るとともに、民生委員連絡会や安心ネット連絡会を開催し、顔の見える関係づくりを積極的に推進します。

（実績報告 P.8 事業番号 1-1-1）

(2) 地域ケア会議の運営

令和 6 年度は、地域ケア個別会議を 17 回、地域ケア連絡会議を 6 回実施しました。また、「車いすステーション事業」について、前年度から富坂・大塚圏域で試行的に実施し、本富士・駒込圏域への実施範囲拡大に向けた広報活動や協力機関選定に努めました。

今後も、車いすステーション事業の実施範囲拡大に向けた準備を進め、引き続き地域ケア会議を継続的に開催するとともに、区全体の課題の抽出を行っていきます。

（実績報告 P.8 事業番号 1-1-3）

(3) 高齢者見守りあんしん I o T 事業

令和 6 年度は、見守り電球事業は 219 名、見守り扉センサー事業は 33 名の利用実績でした。見守り電球事業は、家族等への通知メールは 691 件、委託事業者による代理訪問は 3 件と具体的な支援にもつながっています。

扉センサーについては、委託事業者都合により、令和 6 年度末でサービス終了となりましたが、引き続き、各種講演会やイベント開催時のチラシ配布や事業概要の説明等により、幅広く事業の周知を行います。

（実績報告 P.9 事業番号 1-1-11）

(4) シルバー人材センターの活動支援

ホームページのリニューアルや会員募集のイベントの実施など、入会を希望する人に向けた情報発信を行った結果、新たに 72 人の新規会員を獲得することができ、会員数の目標を達成しました。

今後も区報掲載やイベント実施時にチラシ配布等を行うなど、シルバー人材センターの活動を支援することで、会員数や就業人数の増加を図ります。

（実績報告 P.9 事業番号 1-1-14）

(5) シルバーお助け隊事業への支援

安定的な需要が続いていますが、昨年度は記録的な猛暑等により事業周知の機会や受注できる仕事に制限があったことから、夏期の利用実績が伸び悩み前年度より派遣実績が減少しました。

区報やイベントでの周知など様々な媒体を活用し一層の事業周知を図ることで、会員の派遣を促進するとともに、利用する高齢者等が安心して生活できるよう支援します。

(実績報告 P.10 事業番号 1-1-15)

○ 認知症施策の推進

(1) 認知症に関する講演会

普及啓発の一環として、認知症に関する正しい知識と理解を目的とした講演会を実施しています。令和6年度は、計4回（日常生活圏域ごとに1回ずつ開催）の講演会を開催し、107人の参加がありました。

引き続き、認知症に関する正しい理解を促進し、認知症を「自分事」として身近に感じられるよう、内容や実施方法に工夫を凝らしながら、普及啓発につながる機会を提供していきます。

(実績報告 P.10 事業番号 1-3-1)

(2) 認知症サポーター養成講座

令和6年度は757人が養成講座を受講し、養成したサポーターは延べ19,148人となりました。また、15人が実践講座を受講し、公式LINEアカウントにより、認知症に関するボランティア活動情報を配信しました。

今後も、認知症サポーター養成講座・実践講座の開催を継続し、主に実践講座の修了者に対し認知症関連事業に係るボランティア活動を案内し、活動の定着を図ります。

(実績報告 P.11 事業番号 1-3-2、1-4-2)

(3) 認知症検診事業

令和6年度は、PFS（成果連動型民間委託契約方式）の導入3年目として取組み、①認知機能テスト（自宅版）の実施者数は1,486人となり、目標値を上回ったものの、②フォローアッププログラムへの参加者数（平均）は29人となり、目標値は未達となりました。

今後は、指定医療機関での個別検診へ移行するとともに、希望者に対して脳の健康度セルフチェックの機会を提供します。また、フォローアッププログラムについても見直しを行い、認知症の普及啓発及び早期支援の取組みを推進します。

(実績報告 P.12 事業番号 1-3-9)

(4) 認知症家族交流会・介護者教室・認知症カフェ

令和6年度は、認知症家族交流会8回、介護者教室8回を実施する他、地域の方により身近で参加しやすい場所となるよう、取組内容や実施回数を拡充し、認知症カフェ33回を実施しました。

引き続き、企画内容や事業の実施方法に工夫を凝らし、認知症の本人や家族等が地域で身近に通える居場所づくりを推進していきます。

(実績報告 P.13 事業番号 1-3-12、1-4-4)

(5) 認知症の症状による行方不明者対策の充実

行方不明に備える事前登録事業の登録者は 188 人、行方不明者の早期発見・保護を図るメール配信事業の協力者は 969 人となりました。また、行方不明者対応の模擬訓練を町会・高齢関連企業等の協力を得て実施し、40 人の参加がありました。

今後も、地域団体に向けた周知、区報、イベント等での周知及び啓発を行っていきます。

(実績報告 P.13 事業番号 1-3-14)

2 在宅サービス等の充実と多様な住まい方の支援や取組

○ 介護サービスの充実

(1) 地域密着型サービス

認知症高齢者グループホームを含む小日向二丁目国有地の特別養護老人ホーム等の整備について、事業者の行う設計・整備において支援しました。また、本郷六丁目における看護小規模多機能型居宅介護の整備を進め、公募により事業者を選定しました。

今後は、小日向二丁目国有地及び本郷六丁目における整備について、補助手続や説明会等、工事着工に向けて事業者を支援します。また、国有地を活用した地域密着型サービスの整備の検討を進めていきます。

(実績報告 P.14 事業番号 2-1-3)

(2) 主任ケアマネジャーの支援・連携

「利用者からのカスタマーハラスメント」の研修を行い、38 名の参加がありました。また、ハラスメントの法的な考え方から対応を交えた解説があり、ハラスメントへの理解を深める一助とすることができました。

引き続き、事業者の要望を勘案し、研修を適宜実施していきます。

(実績報告 P.14 事業番号 2-1-7)

○ 介護サービス事業者への支援

(1) 介護サービス事業者連絡協議会・部会の運営

協議会加入の全 224 事業所を対象とした連絡協議会及び事業者部会を開催しました。部会では、「虐待防止研修」や、「ICT 研修」等、介護従事者の資質・能力の向上を目指した研修を実施しました。参加事業所及び参加者数は、延べ 372 事業所 507 人の参加がありました。

引き続き、Zoom を活用し、多くの事業者が参加しやすい体制を整えていきます。部会では、事業所ニーズや、法改正等に沿った研修を実施し、介護従事者の資質及び実務能力向上に寄与していきます。

(実績報告 P.15 事業番号 2-3-1)

○ 介護人材の確保・定着への支援

(1) 介護人材の確保・定着に向けた支援

研修受講費用補助については、周知継続により、前年度実績を上回りました。EPA 外国人介護福祉士候補者受入れ事業については、1 事業所が補助金の活用により継続して申し込みを行い、2 人のマッチングと2 人の就労開始につながりました。

今後は、住宅費補助及び研修受講費用補助等の拡充を図り、さらなる職員定着を図っていきます。また、EPA 介護福祉士候補者受入れ事業についても補助を継続し、人材の確保につなげていきます。

(実績報告 P.16 事業番号 2-4-1)

○ 住まい等の確保と生活環境の整備

(1) 高齢者施設（特別養護老人ホーム）の整備

小日向二丁目国有地における特別養護老人ホーム等の整備について、事業者による事業概要説明会を2 回、施工者によるがけ地整備工事説明会を1 回実施し、東京都との補助協議を進めました。

今後は、がけ地整備工事を完了させ、新築工事着工となるため、説明会実施や補助事業において事業者を支援します。

(実績報告 P.16 事業番号 2-5-5)

(2) 旧区立特別養護老人ホームの大規模改修

文京白山の郷については、入居者の移転を終え、大規模改修工事の基本・実施設計を開始しました。また、文京千駄木の郷については、併設する保健サービスセンター本郷支所も含め施設全体の状況や今後の進め方等について、関係部署と協議・検討を進めました。

今後は、文京白山の郷については、基本・実施設計の完了を目指し、文京千駄木の郷については、保健サービスセンター本郷支所における工事の影響範囲や対応を整理するための現況調査を受けて、改修工事方針の検討を進めます。

(実績報告 P.17 事業番号 2-5-6)

3 健康で豊かな暮らしの実現

○ フレイル予防・介護予防の推進

(1) 介護予防普及啓発事業

介護予防講演会は地域課題から講演テーマを選定し、参加者の増加につながりました。介護予防展はスタンプラリーを行うことにより、展示・相談・体験コーナーを回ってもらうことができ、より多くの方に介護予防の啓発を行うことができました。

今後は、コロナ禍に中止していた「文の京介護予防体操教室」を再開し、体操の動きや効果について学ぶ機会を設けることで介護予防体操の普及啓発を図ります。

(実績報告 P.17 事業番号 3-2-3)

(2) 文の京フレイル予防プロジェクト

フレイルサポーター養成講座では、定員の 16 名全員が講習を終え、新たなフレイルサポーターとなりました。また、フレイル予防フェスタを開始する等、フレイルサポーターを中心に地域での普及啓発を行った結果、フレイルチェックの参加者は過去最高の 411 人に達しました。

引き続き養成講座を実施することでサポーターの充実を図るとともに、サポーターの地域での様々な活動を通じてフレイルチェックの認知度向上を図り、より多くの区民の参加を促します。

(実績報告 P.18 事業番号 3-2-5)

(3) 地域介護予防支援事業（通いの場）

高齢者が歩いていける距離にバランスよく会場があるよう、住民主体の通いの場（かよい〜の）の運営支援を行うことができました。

引き続き、活動を展開したい地域住民と拠点となる場所を発掘するなど、区内全域で空白地がないよう支援します。

(実績報告 P.18 事業番号 3-3-4)

4 いざというときのための体制づくり

○ 避難行動要支援者等への支援

(1) 高齢者緊急連絡カードの整備

緊急連絡カードは、ひとり暮らし世帯（65 歳以上の方）及び老々世帯（80 歳以上の方のみの世帯）を対象とし、補充調査を行いました。また、前年度のひとり暮らし世帯の全件調査で返答がなかった約 1,850 件の追跡調査を行いました。

令和 7 年度は、ひとり暮らし世帯に補充調査、老々世帯に全件調査を行い、設置人数の増加を図ります。

(実績報告 P.19 事業番号 4-1-3)